



筑波大学
University of Tsukuba



筑波大學台灣校友會會刊
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION COMMUNICATIONS



筑波大學台灣校友會
UNIVERSITY OF TSUKUBA
TAIWAN ALUMNI ASSOCIATION
10672台北市大安區長興街81號
筑波大學台灣校友會秘書處
02-3366-9313

Contents 目次

会長挨拶

- 2 校友会会報の創刊にあたって

台湾校友会成立

- 4 筑波大学台湾校友会発足式の開催

対談 蔡 茂豊 × 永田 恭介

- 6 対談 蔡 茂豊 × 永田 恭介

外務大臣表彰

- 22 2016年度日本国外務大臣表彰

活動報告

- 24 TGSW: 筑波大学サイエンスウィーク
- 26 台湾文化ウィーク参加報告

校友エッセイ

- 30 清掃活動で社会をより美しく
- 31 台湾に赴任して

留学生エッセイ

- 32 グローバル30
- 33 大学の街

校友交流

- 34 筑波大学台湾校友会各地の親睦会

台湾オフィス報告

- 38 筑波大学台湾オフィス便り

校友会規約

- 38 筑波大学台湾校友会規約

42 会計報告

- 43 編集後記

會長的話

- 2 校友會會報創刊

台灣校友會成立

- 4 筑波大學台灣校友會正式成立

對談 蔡 茂豊 × 永田 恭介

- 6 對談 蔡 茂豊 × 永田 恭介

外務大臣表彰

- 22 2016年度日本國外務大臣表彰

活動報告

- 24 TGSW: 筑波大學科學週
- 26 參加「台灣文化週」之活動報告

校友的話

- 30 清潔整理整頓 讓社會更美好
- 31 派駐台灣

留學生的話

- 32 Global 30
- 33 大學城

校友交流

- 34 筑波大學台灣校友會共聚一堂

台灣辦事處報告

- 38 來自「筑波大學台灣辦事處」

校友會章程

- 38 筑波大學台灣校友會規約章程

42 會計報告

- 43 編輯後記

校友会会報の創刊にあたって

筑波大学台湾校友会会長の林華章です。校友会会報の創刊を記念してご挨拶申し上げます。

私は1987年筑波大学体育学研究科（修士課程）に入学し、野球におけるコーチングや運動メカニクスを研究し、1989年に同修士号を取得しました。この間、筑波大学の台湾人留学生会の会長として活動しました。同時期に、本校友会の李嘉進顧問、邱若山副会長、潘進丁副会長、張建中氏とも勉学を共にしています。卒業後は、野球において台湾ナショナルチームのコーチや監督を経験させていただき、現在は国立台湾体育運動大学の校長を務めています。

筑波大学台湾校友会は、2016年2月20日に台北にて総会を実施して発足しました。約70名の校友の皆様、本学の永田恭介第9代学長をはじめとする筑波大学関係者の臨席をいただきました。会則および幹事については本会会則をご覧ください。

本校友会では、特に以下の点を心がけて、校友の皆様との親睦を図って行きたいと考えています。

（1）筑波大学およびその前身となる学校に在籍した校友を対象としていること

筑波大学は1872年に東京高等師範学校としてその歴史が始まり、東京文理科大学（1929年）、東京教育大学（1949年）を経て、1973年に現在の茨城県つくば市に本部キャンパスを移して筑波大学となりました。本校友会は、このような筑波大学の歴史を踏まえ、筑波大学およびその前身となるすべて

の大学・組織に所属した校友の集う会を目指しています。

（2）国籍を問わず、台湾在住の方を対象としていること

本会の幹事会にも、台湾人と日本人の校友に参加いただいています。国籍を問わず校友同士が共に盛り上げていく校友会を目指しています。

（3）校友同士の親睦、および、台湾と日本との相互交流と友好発展に寄与すること

校友同士の懇親会、筑波大学と台湾の交流支援などを企画実施していきます。本会報もその一助となれどと考えています。皆様の方で活動企画などありましたら、是非幹事会へご連絡ください。校友の皆様と情報共有するとともに協力して活動していきたいと考えています。

（4）これまでの校友活動に敬意を払うこと

本学の144年に渡る歴史の中で、様々な先輩・後輩の方々が、校友間の親睦や筑波大学との交流に貢献されてきました。近年では、黄錦容先輩が、筑波大学江崎玲於奈第5代学長、北原保雄第6代学長、岩崎洋一第7代学長の訪台の際に校友の方々にお声掛けし、筑波大学との交流を深めたと伺っています。このような活動に敬意を払い、また校友間でこれまでの活動を共有するためにも、本会報などに取り上げて行きたいと考えています。是非とも御寄稿ください。

本会をより良いものにしていくため、皆様のご意見をお待ちしております。

私または幹事会へご連絡いただけますと幸甚です。

筑波大学台湾校友会会長（初代）2017年1月21日

會長的話

我是筑波大學台灣校友會會長林華章，在此為本校友會會刊之創刊，向大家致上最深的感謝。

我是1987年進入筑波大學體育學研究所碩士班，研究棒球與教練學、運動力學等，於1989年取得碩士學位。在求學期間，曾擔任筑波大學台灣留學生會會長。當時本校友會的李嘉進顧問、邱若山副會長、潘進丁副會長、張建中先生，都是與我互相勉勵一同求學的好朋友。畢業後，我繼續留在棒球的領域，經歷了台灣國家代表隊教練等職務，現擔任國立台灣體育運動大學校長。

本校友會於去年2月20日在台北召開了第一次的總會正式成立。當天有筑波大學第九任的永田恭介校長，以及諸位遠道而來的師長親臨指導，並且集結了將近70位的校友，共襄盛舉。請大家抽空閱覽會則以及幹事會之章程。

本校友會的成立目的在於促進校友之間的交流，故以下幾點要在此特別跟大家說明：

（1）本校友會の入會資格，以筑波大學及前身大學校友為對象。

筑波大學始於1872年創校之東京高等師範學校，經歷了東京文理科大学（1929年）、東京教育大學（1949年）的時代，於1973年把校本部移到筑波市，以此地為名而成立了筑波大學。故本校友會以此歷史的軌跡為本，以集合筑波大學及前身之所有大學之校友為目的而設立。

（2）不分國籍，以居住在台灣的校友為對象。

以本校友會的幹事會為例，台灣的校友



和日本的校友皆擔任幹部，不分國籍，一同為台灣校友會的活動盡心盡力，以融合不同國籍的校友為目的而設立。

（3）以增進校友間的感情，加強台灣與日本間相互的交流與發展為目的。

將策劃校友間的聯誼活動，並支援筑波大學與台灣之間的交流，本次發行之會刊創刊號，即為此目的而策劃，希望能對促進聯誼有所助益。諸位校友若有其他活動企劃的想法，也煩請跟幹事會聯絡。願校友們都能在共有共享的基礎上，互助合作，為本校友會的活動增添色彩。

（4）向歷來的校友會活動致敬

在母校144年悠久的歷史中，有些校友先進為校友活動貢獻良多，例如黃錦容學姊近年來在筑波大學第五任江崎玲於奈校長、第六任北原保雄校長、第七任岩崎洋一校長訪台之際，皆居中聯繫校友接待，在與母校之交流活動中，功不可沒。在此向歷來的校友會活動參與人員，致上最高的敬意與最深的感謝。

為了本校友會的茁壯與成長，竭誠歡迎所有的校友們，隨時提供寶貴的意見給我們，還請不吝賜教。

筑波大學台灣校友會 會長（第一任）2017年1月21日

筑波大学台湾校友会発足式の開催

2016年2月20日、台北市にて「筑波大学台湾校友会」発足式が行われました。発足式には、現地の約60名の同窓生と、筑波大学からは永田恭介学長ほか計22名が参加しました。台湾校友会初代会長には、国立台湾体育運動大学の林華韋学長（1989年体育学修士）が就任し、合わせて潘進丁副会長（台湾ファミリーマート会長・1985年経営政策修士）、邱若山副会長（静宜大学准教授・1992年文芸言語研究科）が承認されました。加えて李嘉進顧問（亜東関係協会会長・2014年国際日本研究博士）、陳碧涵事務局長（国立台湾戲曲学院准教授・1989年舞蹈方法学修士）が就任する

とともに、総会出席者との議論のうえ会則が成立しました。

第2部は「筑波大学を共有する」と題し、永田学長の祝辞に続いて、御澤真一郎氏（2009年人文学類卒）、李柏旻氏（2004年農林工学博士）、邱若山（同上）による筑波大学での思い出「筑波大学今昔物語」の発表、ベントン副学長による筑波大学の現在から未来に向けた活動、筑波大学未来物語の紹介などがありました。

続いての懇親会は、台湾にある13の本学協定校からの来賓も加え、それぞれからご挨拶をいただき、盛大に執り行われました。



筑波大學台灣校友會正式成立

2016年2月20日於台北市成立筑波大學台灣校友會。筑波大學正式的海外校友會繼越南胡志明校友會，中國大陸北京校友會，以及上海校友會，台灣是第四個海外校友會。成立大會上，筑波大學永田恭介校長親臨會場以外，筑波大學和筑波大學前身東京教育大學的在地校友約60名校友也都共襄盛舉。大會同時推舉現任國立台灣運動大學校長林華韋學長為第一任校友會會長（1989年體育學碩士）。副會長則是由潘進丁學長（1985年經營政策碩士，台灣全家超商董事長）和邱若山學長（靜宜大學副教授，1992年文藝言語研究科）榮任。李嘉進學長被推選為顧問（2014年國際日本研究博士、亞東關係協會會長）、秘書長則是由陳碧涵學姊榮任（1989年舞蹈方法學碩士、國立台灣戲

曲學院副教授）。此外，在總會出席者一致同意下通過筑波大學台灣校友會章則。

接下來的校友聯誼時間，永田校長致詞之後，御澤真一郎（2009年人文學類畢業）李柏旻（2004年農林工學博士）、邱若山（同前）等學長們的筑波回憶，紛紛發表了「筑波大學今昔物語」。之後，由Caroline F. Benton副校長（負責國際交流）介紹「筑波大學未來物語」，針對筑波大學的現在，未來各種活動做了詳盡的說明。

最後，移動會場舉行歡聚餐會。餐会上有來自台灣13所筑波在台姊妹校貴賓的致詞，將會場氣氛帶到最高潮。期待今後經由筑波大學畢業生、在校生、以及相關人士間的相互交流築起台日之間友誼橋樑。



対談 蔡 茂豊 × 永田 恭介

東呉大学名誉教授

筑波大学学長

本年4月に本学と全学協定を締結した東呉大学は、日本語教育に定評のある台湾の私立大学です。その日本語学科を設立時から支えたのは、筑波大学の前身である東京教育大学で学んだ蔡(さい) 茂(も)豊(ほう)名誉教授でした。

協定締結にあたり、本学永田学長と蔡(さい)先生との対談が実現しました。

偶然と運命と縁と

永田：本日は、お越しいただきありがとうございます。内心、協定の調印式よりも蔡先生にお会いすることをとても楽

しみにしていたんです。こうしてお話することができて光栄です。

蔡：私は1965年に、留学していた東京教育大学の博士課程を休学し、日本語教育をするために台湾へ戻りました。台湾の日本語教育は始まったばかりで、まだ手探り状態でしたし、政治的には日台関係は険悪でしたから、日本語に関わる者にとっては困難な時代でした。そんな中で、北原先生（元筑波大学学長）には、夏休みの集中講義に来ていただいたり、台湾への派遣講師を何人も紹介していただいたりと、ずいぶん助けていただきました。今日、東呉大学の日本語学科が高

Profile さい も ほう

蔡 茂豊

東呉大学名誉教授

- | | |
|--------|---|
| 1933 年 | 台湾屏東県東港鎮に生まれる |
| 1953 年 | 屏東師範学校を卒業し国民学校教師に |
| 1957 年 | 国立成功大学（漢文学専攻）入学 |
| 1962 年 | 日本政府国費留学生として
東京教育大学文学研究科国語国文学専攻研究生 |
| 1973 年 | 東呉大学日本語学科主任 |
| 1976 年 | 『東呉日本語教育』創刊
刊行の辞に語族別日本語教育を唱える |
| 1980 年 | 東呉大学日本文化研究所修士課程設置
教授兼初代所長（～1988 年）
筑波大学学術博士 |
| 1993 年 | 台湾日本語教育学会創立
初代会長（～1995 年） |
| 2001 年 | 東呉大学人文社会講座教授 |
| 2003 年 | 『台湾日本語教育の史的研究』（上・下）刊行 |
| 2005 年 | 台湾における日本語教育普及への貢献により
対日断交後初の旭日中綬章受章 |
| 2012 年 | 東呉大学と台湾日本語教育学界から引退 |

この間、日本語教育に関する論文92 本、教材47 冊（編著）、著書・訳書28 冊を発表するとともに、43 名の修士論文と15 名の博士論文を指導。

い評価を得られているのは、このおかげだと思っています。

永田：先生が国費留学生として日本に来られたのは1962年でしたね。留学先に東京教育大学を選ばれたのはなぜですか。

蔡：本当は東京大学を希望していたんです。しかし、私が指導をお願いしようと思っていた日中比較文学の先生が退官されてしまっていて、代わりに東京教育大学を紹介されました。教育大では初めて国費留学生を受け入れるということで、教員も職員もてんやわんやだったようです。自分で選んだわけではありませんでしたが、教育大で台湾にゆかりのある馬淵先生と出会い、国語学と国文学の研究をすることになったのです。今思うと、それが運命の分かれ道でしたね。

永田：偶然が実は必然だったのですね。教育大で修士号を取って、博士課程に進まれたのですか。

蔡：博士課程に進んだ直後に、台湾の大学で戦後初めて日本語学科ができることになって、帰ってこないかと声をかけられました。馬淵先生に相談したところ、これからは日本語教育の時代だから君に相応しいと、快く送り出してくれました。日本で研究を続けても学位を取れる保証がないということだったのかもしれませんが、それで私は日本語教育の道へ踏み出すことができたのです。

永田：後に、筑波大学で博士号を取られましたね。休学していた博士課程に戻られたのですか。

蔡：当時、私は東呉大学の日本語学科



主任になっていましたが、博士号を持っていないことに引け目を感じていました。他の学科の主任は皆、アメリカ帰りで学位を持っていましたからね。それで、東京教育大学に復学しようと思いました。再び馬淵先生に相談したら、開学したばかりの筑波大学に客員教員として来てはどうか、と言っていました。論文博士という方法もあるというわけです。

永田：台湾での先生のご活躍が日本にも伝わっていたのですね。

蔡：認めていただいていたことにとっても感激しました。ただ、1977年に学位請求論文を提出したのですが、筑波大学は開学間もなく、課程博士の実績がなかったために、論文博士を出せないことがわかりました。学位がいただけたのは1980年のことです。台湾では、日本語教育の分野で初めて博士号を取得したということで、新聞にも載ったんですよ。学位を得たことで、学内での発言権も大きくなり、仕事の幅が一挙に広がりました。

永田：お弟子さんたちも大勢、筑波大学へ送られています。

蔡：日本政府の奨学生として、たくさんのお学生を筑波大学に受け入れてもらいました。その年の奨学生の定員すべてが、東呉大学の日本語学科の学生だったこともあったほどです。彼らは帰国後、台湾全土で日本語教師として活躍しています。

永田：先生が最初に築いた筑波大学とのつながりを、お弟子さんたちがさらに強

くしていった。筑波大学にとっては、これも先生の教育の大きな功績の一つです。

学びへの強い思い

永田：台湾の言語は、現在では北京語ですが、先生の世代は日本に統治された時期があり、初等教育は日本語で受けられています。その後、中国による統治が変わって、日本語の使用も禁じられた。そのような背景にありながら、日本語を学び続けた動機はどのようなことだったのでしょうか。

蔡：私は小学校5年生まで日本語で教育を受け、日本語の本も読んでいましたし、家できょうだいと交わす言葉も日本語でした。特に5年生の時に担任の先生が日本人になって、その先生とは宿舎で一緒に生活しました。それで、勉強だけでなく生活面でもいろいろなことを教わりました。まだ少年でしたから、植民地だとか政治のことを考えることもなく、純粋にその先生を慕っていました。今になってみると、自分でも気づかないうちにその記憶がずっとどこかに残っていたのですね。日本に留学することになった時、その先生を訪ねようとしたのですが、戦後、帰国されて間もなく亡くなられたとのことでした。

永田：教師という職業に就かれたのも、その先生の影響ですか。

蔡：いえ、教師になりたいとは思っていませんでした。私の家は経済的に苦しか

ったので、勉強を続けるためには師範学校に進むしかなかったんです。師範学校では食事はもちろん、給料までもらえたから。そもそも、日本の統治が続いていたら、今日の私はなかったかもしれません。というのは、中国の国民党政府は、台湾の各市町村に中学校を設けてくれたのです。それまでは台湾人にとって中学校さえもなかなか入れるものではありませんでした。私は中学校では中国語を習い、中国の教育を受け、そして師範学校に入ったのです。師範学校を卒業してから3年間は、義務で教師をしました。

永田：ということは、中学から師範学校までは中国語で学び、教師になってからも中国語で教えられていたわけですね。しかし、そのまま教師を続けられるのではなく、国立成功大学に入学されました。やはり、もっと勉強したいという気持ちが強かったのでしょうか。

蔡：そうです。チャンスがあれば普通の大学に進学したいと考えていました。師範学校の卒業生の多くは、師範学院（師範大学）に進学して中等教育の先生になります。けれども私は、一般大学を目指していました。小学校の教師をしながら、友人たちが普通高校から大学に進学していくのを横目で見て、このままここにとどまっただけいけない、と自分を鼓舞したものです。

永田：大学で学ぶために、ずいぶん苦労されたのではないのでしょうか。

蔡：師範学校では、一般の大学受験に



必要な科目、例えば英語などは教えてくれませんでしたから、受験勉強は大変でした。当時の成功大学は工学や医学では難関校で、私が目指していた漢文学はそれほどでもなかったとはいえ、我ながら頑張ったと思います。

漢文学から日本語教育へ

永田：漢文学を専攻されていたということですが、日本語教育とはまだまだ距離がありますね。大学で日本語を学ぶことはなかったのですか。

蔡：大学を受験する時、自分で学費と生活費を稼ぐという条件で父親を説得したんです。ですからそのために、成功大学に入ってから、日本語を教え始めました。その頃ようやく、戦後禁じられていた日本語教育が解禁されて、英文学科の選択科目として日本語を履修することができるようになったのですが、同期生は私よりも一回り若く、日本語で教育を受けた世代ではありませんでしたし、他に日本語がきちんとできる先生もいませんでした。それで皆、私を頼ってきたんです。師範学校出身の私

は、教えることも得意です。まさに好都合でした。3～4年生の頃には学内でかなり有名になっていたんですよ。

永田：なるほど。日本語を学ぶのではなく、教えるところから始まったのですね。それにしても、当時の台湾ではまだ日本に対する印象は良くなかったのではないのでしょうか。日本語教育が解禁されたとはいっても、学生が敢えて日本語を学ぼうという気持ちにはならないように思うのですが。

蔡：そのことは今でも議論されています。台湾人はなぜこれほどまでに日本人に対して弱腰なのか、と。おそらく、戦後、台湾へ乗り込んできた中国国民党のやり方が、それ以前の日本の植民地時代よりもよほど厳しかったことに、その原因があるのではないかと私は考察しています。日本の植民地であった時代、台湾の人々は日本人から過酷な扱いを受けました。それが50年も続いたのですから、日本人を恨んでいる人もたくさんいるはずです。朝鮮人も同じような経験をしていて、今でも日本人への怨念を露わにする人がいます。それなのに、台湾人は日本人に対して直接その怒りをぶつけるようなことはしないのです。それは、日本よりも中国による統治の方がはるかに厳しい政治的統制であったためです。私がこのような分析をすることができたのは、台湾人の李登輝さんが大統領になってからのことです。様々な日本語の資料が公開されてはじめて、研究が進展しました。

永田：李登輝さんが資料を解禁するまでは、そういったこともわからなかったわけですね。

蔡：日本語教育を受けていない世代の人たちは、日本に対する憎しみがあつたとしても、その感情を切り離して、日本語を使うことを選んだのです。

独自の方法論を生み出す

永田：ところで、自分が日本語を流暢に使えるということと、それを人に教えるというのは別の話だと思います。日本から帰国されて本格的に日本語教育に携わるようになって、どんなことを感じられましたか。

蔡：国語としての日本語と、外国語としての日本語は違うということです。東京教育大学でも、国語学や国文学、国語教育という研究分野はありましたが、日本語教育というのはありませんでした。でも実際にやってみると、同じ日本語の文法でも、国語教育と日本語教育とでは説明の仕方が異なるんです。私は国語学で学んだ日本語の知識を生かそうとしましたが、それは日本人向けの国語文法でした。日本語教育のための文法書というのは、私も作ろうとしてなかなか進まずにいますが、他でも未だに作られていないのではないのでしょうか。

永田：先生ご自身も、日本語教育が専門だったわけではなく、模索しながら日本語の教え方を構築されていったということ

ですか。

蔡：当時は日本語が話せるというだけで日本語教師になることができました。日本に留学した人にとっては、それがいちばん手っ取り早い就職先だったとも言えます。専門分野に関わらず、日本の大学で学位をとっていれば良かったんです。そのことも、台湾で日本語をどうやって教えるかという方法論の確立が遅れてしまった要因だと思います。

永田：日本語教育の方法論を新たな学問として成立させていく中で、先生は、「語族別日本語教育」という新しい教育法を提唱されていますね。それはどのようなものですか。

蔡：台湾は多言語社会です。台湾人、客家人（独自の伝統や方言を有する漢民族）、大陸系、先住民族などがいて、彼らはそれぞれの言語を持っています。英語やフランス語を話す人もいます。このようにいろいろな母語を持つ人々に日本語を教えるにはどうしたらよいか。語族別日本語教育は、地域や民族など、共通の言語を持つ人々のグループを作り、そのグループの共通語を媒介語として日本語を習得していくという方法です。そのためには、教える側も相手の共通言語に精通している必要があります。日本語を学ぶのだから日本語で教えるべきだという考え方が一般的かもしれませんが、苦手な言語で外国語を習うのは効率的ではありません。私は、日本やシンガポールなど海外の大学へ教員を派遣し、



この方法を試してみて、その効果を確認しました。現在、台湾ではこの理論に基づいた日本語教育が主流となっています。

永田：台湾ならではの社会構成や風土のもとで、日本語教育も独特の発展を遂げたのですね。先生の理論をお弟子さんたちが実践し、成果を上げて、台湾の各地へ展開していったというのも素晴らしいことです。

これからの教育に向けて

永田：先生はすでに教育現場の第一線からは退かれています。長年、台湾での日本語教育を主導してこられた先生の眼には、現在の日本語教育や日本語研究はどのように映っているのでしょうか。

蔡：時代はずいぶんと変わりました。近年、日本語の教育や研究を専門とする人たちの間では、日常会話は日本語でも、学術の議論は英語で行われることも珍しくありません。日本語教育やその研究が世界中で学問分野として認められてきたことの表れでもあります。ひとつの外国語ができるというだけでは不十分な時代になったと

感じています。英語ができた上で、さらに自分の専門性を高める、これからは、それが学術の世界で活躍できる条件だと思います。台湾で物理学を専攻する人は、日本語がわからなくても物理学は学べますが、日本語ができれば強みが格段に増すはずです。私も英語ができれば、もっと幅広く教育や研究ができたかもしれませんね。

永田：語学は、研究や仕事の可能性を広げるために欠かせない力になるということですね。

蔡：教師と学生との関係も大きく変わったように感じています。私は、自分の子ども時代や学生だった頃の先生にとっても恵まれました。知識を教えてくれるだけでなく、熱心に励ましてくれたり、親身に相談にのってくれたり、先生の実在は精神面でも大きな支えでした。ですから自分も教

える立場になってからは、同じように情熱を持って学生と触れ合うように心がけました。しかし最近では、そのような姿勢で教育に臨む教師は少なくなったのではないのでしょうか。

永田：確かに、研究者として一流の人は多いけれど、「先生」として全人的に導いてくれるような人は減ってしまったかもしれません。日本でもかつては、先生というのはそんなふうに真摯に生徒や学生と向き合い、気にかけてくれる、親のような役目も担っていたように思います。

蔡：中国語に「五経の教師になれ」という言葉があります。五経、つまり学問を教えなさい、そして人の道の理も教えなさい。人間としてどうあるべきかということまでを含めての教育、ということです。学問や研究の指導はしても、人格形成や将来



の生き方にまでは関わらないという態度は、私は違うと思います。私は学業の面では学生に厳しくあたりましたから、怖がられていたかもしれません。でも、他の部分では、悩みを聞いたり食事を共にするなど、学生を自分の家族だと思って支援しました。本来の教師の役割を越えているかもしれませんが、人に何かを教えるという仕事は、それだけ大きな務めも負っていると

思います。

永田：教える者の一人として、とても考えさせられるご指摘です。私も先生のように熱い気持ちで学生に接していきたいと思っています。まだまだ伺いたいことがたくさんありますが、残念ながら時間になってしまいました。また改めて、ゆっくりとお話できる機会をいただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。🌸

門下生からの一言



きゅう じゃく さん
邱 若山
静宜大学 日本語文学系 准教授
(筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科単位取得退学)

1975年9月、東呉大学日本語文学系入学式の時に先輩からは、蔡先生の授業で朗読を指名された場合、発音の間違ひは論外、吃ってスピードが足りなかったり、アクセント一つ間違ったりしたら、ひどく叱られるぞ、というアドバイス。果たしてそうだった。

朗読の練習を繰り返すクラスの風景、宿舎の夜半、隣のベッドから出たテキスト朗読のうわ言、マッチ棒と楊枝で朗読練習の回数を数えるクラスメートのことをよく覚えている。また、朗読後いつも思わず冷汗三斗の背中を触った。それは、いつしか自分の習慣となった。先生の厳しい訓練のお陰で、多少自信のある日本語力を身につけたが、先生の前で堂々と日本語を話すことが出来たのはずっと後のことだった。

弟子になったことの幸せを今なお感じさせてくれる先生である。



う ない めい
于 乃明
国立政治大学 日本語文学系 教授
(筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科修了)

東呉大学日文系第一期生の我々は、一年次のとき、日台国交断絶に直面したが、蔡先生は我々に勉強に励むよう諭し、厳しく指導してくださった。先生は我々がきれいな標準語を話せるよう、会話の尾久幸子先生、音声学の原土洋先生を迎えた。そしてご自身で文法を教え、我々が文の分析を繰り返し練習できるよう授業を行った。おかげでしっかりした日本語力を習得でき、みな感謝している。

先生は東京教育大学出身のため、我々第一期生六人はその推薦で筑波大学に留学した。現在、そのうちの四人が大学で教鞭を取っている。

厳しい反面、面倒見がよく、数多くの学生を指導してきた蔡先生は、今では台湾の日本語教育を見守ってくださる、優しい親のような存在である。

對談：蔡茂豐 × 永田恭介

東吳大學名譽教授

筑波大學校長

今年（2016年）四月與筑波大學締結全校協定的東吳大學，是在日語教育領域久負盛名的台灣私立大學。其日文系的設立以及發展上，最大的支柱是筑波大學的前身東京教育大學出身的蔡茂豐名譽教授。

在締結協定之際，筑波大學永田恭介校長和蔡茂豐教授有了對談的機會。

偶然、命運與緣份

永田：感謝您今日蒞臨。比起兩校簽約儀式的舉行，我內心更期待與蔡老師見面。能以這種方式和您對話感到非常地光榮。

蔡：我在1965年時，為了日語教育，從留學期間所就讀的東京教育大學博士課程休學，回到台灣來。當時台灣的日語教育才剛起步，還處於摸索狀態，在政治方面日台關係已經惡化，對日語相關的人而言是困難的時代。在那時候，請北原保雄教授（筑波大學前校長），來進行暑期集中授課，也請他介紹多位教授前來台灣的授課，得到他很多幫助。現在東吳大學日本語文學系有很好的評價，是託他的福。

永田：老師是以國費留學生的身分前來日本是在1962那一年。為何選擇前往東京教育大學呢？

蔡：其實我本來是想要去東京大學。但是因為我想請其擔任指導教授的日中比較文學專攻的老師退休了，代之為我介紹了東京教育大學。對東京教育大學而言是第一次接受國費留學生。據說教職員都忙翻了。雖然我不是自己選擇的，但在教育大學認識了和台灣有很深淵源的馬淵和夫教授，就決定從事國語學跟國文學的研究。現在想來，那真是命運的分歧點。

永田：偶然其實就是必然啊。在教育大學取得碩士學位後進入博士課程的嗎？

蔡：進去博士課程不久，台灣的大學設立戰後最早的日本語文學系，被徵詢是否回國。把這件事與馬淵教授商量的結果，他告訴我說：接下來是日語教育的時代，跟你很適合。很爽快地就准許我離開。或許是因為在日本繼續研究也不一定能保證取得學位吧！不過，也因此我才能踏出日語教育這條路。

永田：之後，您是前往筑波大學取得博士學位的。是回到以前辦理休學的博士課程嗎？

蔡：當時我已經擔任東吳大學日文系的主任了。因為其他學系的主任都是從美國學成歸來具有博士學位，自己沒有博

Profile

蔡茂豐

東吳大學名譽教授經歷

1933年	出生於台灣屏東縣東港鎮
1953年	畢業於屏東師範學院 擔任小學教師
1957年	進入國立成功大學（中國語文學系）
1962年	考上日本政府公費留學生 進入東京教育大學文學研究科國語國文學專攻研究
1973年	東吳大學日文系主任
1976年	創刊『東吳日本語教育』於刊頭詞提出語族別日本語教育的主張
1980年	設置東吳大學日本文化研究所碩士課程擔任首任所長（至1988年）獲筑波大學學術博士學位
1993年	創立台灣日語教育學會擔任首任會長（至1995年）
2001年	擔任東吳大學人文社會講座教授
2003年	出版『台灣日本語教育史的研究』（上下冊）
2005年	以對台灣日本語教育普及的貢獻，成為台灣與日本邦交斷絕後第一位 旭日中綬章獲獎者
2012年	從東吳大學及台灣日本語教育學界引退



士學位，感到差人一截。所以想要到東京教育大學復學。再次跟馬淵教授商量的結果，他建議我到剛設校的筑波大學擔任客座教授，以論文博士的方式拿到學位。

永田：您在台灣的活躍情形也傳到了日本吧！

蔡：能受到肯定使我感到非常感激。只是我在1977年提出學位請求論文的時候，筑波大學因為才設校不久，博士課程還沒有實際的成果，無法頒授論文博士學位。我得到學位是1980年的事情。在台灣，以日本語教育領域專攻第一個得到博士學位，連報紙都有報導。因為獲得學

位，所以在學校發言權也大增，工作範圍也迅速擴展。

永田：您也送了很多學生到筑波大學留學。

蔡：請筑波大學接受了很多日本政府國費獎學金的學生。甚至有一年獲得獎學金的學生，全都是東吳大學日文系畢業的。他們在回國之後，活躍於台灣全國的日語教育界。

永田：老師所構築的和筑波大學之間的關係，您的學生把他更強化了。對筑波大學而言，這也是老師在教育界的一大功勞。

強烈的求知慾

永田：台灣的語言現在是使用北京話，但是老師的時代是受日本統治的時期，是以日語接受初等教育的。之後，變成中華民國統治，日語也被禁止使用。在那樣的背景之下，仍然繼續學習日語的動機是什麼呢？

蔡：我一直到小學五年級都接受日語教育、讀日文書，在家裡和兄弟姊妹交談的語言也是日語。特別是五年級時的導師是日本人，跟那位老師住同宿舍一起生活。因此，不只是讀書方面，在生活方面也受到很多教導。那時我還是個少年，沒有想過殖民地、政治的事情，只是很單純的仰慕老師。現在回想起來，自己也沒有察覺到，那些記憶竟然是一直存在著。當我確定要去留學的時候，本想去尋找那位老師，才知道他在戰後回到日本不久就過世了。

永田：老師從事教師這個職業也是受那位老師的影響嗎？

蔡：不是，本來並沒有想當老師。因為我家經濟狀況不好，所以想要繼續念書只能進師範學校。師範學校食宿全部免費不用說，甚至可以領薪水。話說回來，如果是日本持續統治的話，說不定就沒有今天的我。

之所以這麼說，是中國的國民黨政府在台灣的各城市鄉鎮廣設中學。在以前，

對台灣人而言，中學不是那麼容易可以進去讀的。我在中學的時候學了中國話，接受中國的教育，然後進入師範學校的。師範學校畢業後，擔任教師，盡了三年的義務。

永田：這麼說來，從中學到師範學校是學中國話，擔任老師以後也是用中文任教。然而，並沒有持續擔任教職，接下來進入國立成功大學。是否因為當時想要念更多書的意願很強呢？

蔡：是的。我當時想，只要有機會，一定要進一般的大學念書。師範學校的畢業生大部分都是再進入師範大學成為中等教育的老師。但是我的目標是一般大學。一邊當小學老師，看著以前的朋友都是從普通高中進到大學，就會鼓勵自己不能在這邊停住。

永田：為了在大學求學，應該是吃盡苦頭吧。

蔡：在師範學校，並沒有教導要報考一般大學的必要科目，例如說英語等等，所以準備考試很困難。當時的成功大學在工學與醫學方面是競爭率很高的學校。我所目標的漢文學雖然沒那麼困難，不過，連我自己都覺得當時是相當努力的。

從漢文學到日本語教育

永田：您剛剛說專攻漢文學，那跟日本語教育還有很大的距離呢。在大學沒有

在學日文嗎？

蔡：我在考大學的時候，說服我父親說，學費和生活費會自己賺，所以在進入成功大學之後，就開始教日語了。那個時候漸漸地，戰後被禁止的日語教育也開始解禁，作為英文系的選修科目也可以修習日文。

不過同學都比我年輕一輪，並非是受日本教育的時代，也沒有其他真正會日語的老師。所以大家都拜託我。師範學校出身的我教書是本行，真的是如魚得水。三～四年級的時候在學校已經很有名氣了。

永田：原來如此。不是學日語而是從教日語開始。不過當時的台灣對日本的印象還不是很好吧！我想雖說日語教育已經解禁，但是學生還沒有想學日語的意願吧！

蔡：這是現在還經常被討論的事情。台灣人為什麼對日本人姿態那麼低呢？或許是戰後強勢進入台灣的中國國民黨的作法，比之前的日本殖民時代還要嚴苛，我想這是主要的原因吧！在日本的殖民地時代，台灣人受到日本人的苛刻的對待，而且持續了五十年，照理說應該有很多人是恨日本人的。韓國人也有同樣的經驗，到現在都還有人很露骨的表現對日本人的怨恨。然而，台灣人並沒有直接把怒氣發散在日本人身上。那是因為跟日本比起來，中國國民黨的統



治事更加嚴苛的政治上的控制。我能夠做這樣的分析是在台灣人李登輝當了總統以後的事。很多日語相關的資料被公開，研究才有進展。

永田：也就是說在李登輝總統解禁資料之前，很多事情是不為人所知的啊！

蔡：沒有接受過日語教育的世代的人們，即便對日本有所憎恨，也會切離那種感情，選擇使用日語的。

創造獨自的方法論

永田：不過，我想自己能夠很流暢地使用日語跟教別人是不同的吧。從日本回國到真正的從事日語教育，有什麼樣的感觸呢。

蔡：作為國語的日語和作為外國語的日語是不同的。在東京教育大學有國語學、國文學、國語教育這樣的研究領域，卻沒有日本語教育這個領域。但實際教學上，同樣是日語的文法，在國語

教育與日語教育上的說明方法是不同的。

我想活用在國語學學到的日語知識，但是那是教日本人的國語文法。專門提供日本語教育的文法書，我也想編著，但是進展並不順利，其他人也似乎還沒做到。

永田：老師您本身也不是日語教育專長的人，而是一邊摸索一邊建構日語教學方法的嗎？

蔡：當時只要會說日語就可以擔任日語教師。對曾經去日本留學的人而言，可說那是最容易找到的工作。不問專長領域，只要在日本大學拿到學位就可以。這件事也是台灣在如何教日語這個方法論的確立上延遲的主要原因。

永田：在將日本語教育方法論形成新學問的過程當中，老師您提倡了「語族別日本語教育」這樣新的教育方法，是什麼樣的內容呢？

蔡：台灣是多語言的社會。有台灣人、客家人（有著獨自傳統與方言的漢民族）、外省人、原住民，各自擁有自己的語言。也有人說英語跟法語。要教這麼多使用不同母語的人們日語該怎麼辦才好呢。語族別日語教育是按照地區、民族、將擁有共通語言的人們組成一個群體，以群體共通語作為媒介語來學習日語的一種方法。要做到這點，教的人也必須精通學習者的共通語言。因為要

學日語應該要用日語教，這或許是一般的想法。但是以自己不擅長的語言來學習外語是沒有效率的。我曾經試著派人到日本、新加坡等地海外的大學擔任教師，嘗試這個方法，確認了它的效果。現在在台灣以這個理論為基礎的日本語教育成為主流。

永田：在台灣特有的社會結構跟風土裡，日語教育也完成了獨特的發展。老師的理論經過您的學生的實踐獲得了成果，推廣到台灣各地，這也是一件很棒的事情。

今後教育的前瞻

永田：老師您雖然已經從教育的第一線退下來，但長年以來一直主導著台灣的日語教育的您是怎麼看現在的日語教育及其研究呢？

蔡：時代改變得很多。近幾年，專門於日語教育及研究的人們之間，日常會話雖用日語，但在學術的議論上，卻使用英文都情形也屢見不鮮。這是日語教育及研究在全世界被公認為一個學問領域的表徵的同時，也讓我覺得，現在這樣的時代只會一種外語是不夠的。會英文在加上提高自己的專門性，我想是今後要活躍於學術界的重要條件。在台灣專攻物理學的人，即使不懂日文也可以學習物理學，但若是會日文的話，所學就應該會更強才是。如果我也會英文



左起筑波大學Beuton副校長、永田恭介校長、蔡茂豐榮譽教授、林華章會長、邱若山副會長。

的話，或許就能更廣泛地從事教育及研究。

永田：所以您認為為了擴展研究或工作的可能性，語學是不可或缺的一項能力。

蔡：我也感覺到教師與學生之間有著很大的改變。我在孩提時代或是學生時代，遇到了好老師。不只教給我知識，還很熱心地鼓勵我，或是傾聽我的問題。老師的存在也給了我精神上很大的支持。所以當我站在教育者的立場以來，都會用心以同樣的熱誠與學生相處。只是最近以這種態度來面對教育的教師可能越來越少了。

永田：的確，以研究者的身分來說一流的人很多，但是以「教師」這個身分來指導全人教育的人或許越來越少了。在日本，以前老師也是會很真摯地與學生面對面，關切學生，擔任著如同父母一樣的角色。

蔡：中文裡對老師有「經師與人師」的說法。就是不僅教導學問，更要教導做人的道理。也就是教育也包含如何做人。指導學問或研究，但卻與學生的人格形成或將來的生命態度無關的教育思維，我認為是不對的。我在教導學業方面，對學生是很嚴格的，所以或許學生都很怕我。但是在其他方面，我都會傾聽

學生的煩惱，或是一起吃飯，把學生當作自己的家人支持他們。或許這樣是超越了原本教師的角色，但是教人這種工作，我覺得也背負了這樣更大的任務。

永田：以一個教育者來說，您的觀點

讓我獲益良多。我也想像老師您一樣用熱情來對待學生。雖然還有很多想向您請教的地方，不過時間已經到了。改天希望還能有與您慢慢交談的機會。今天非常謝謝您。



來自弟子的一句話

邱若山

靜宜大學 日本語文學系副教授
(筑波大學博士課程文藝言語研究科學分取得、中退。1986-1992)

1975年9月，我在東吳大學日本語文學系的入學式時，學長姐忠告我們：如果在蔡老師的課堂被叫到站起來朗讀，發音的錯誤當然不用說，若是口吃速度太慢、或是重音有一個地方念錯的話，就會被嚴厲地斥責的。果真如此！

我依然還記得班上同學不斷反覆練習朗讀的情景。半夜在宿舍隔壁床所發出的朗讀教科書的夢話，同學用火柴棒或牙籤來計算朗讀練習的次數。還有，朗讀後總是不自覺地反手摸著冷汗濕淋的背部，而這不知何時也變成了自己的習慣。多虧老師嚴厲的訓練，多多少少也養成了有自信的日文能力，但要在老師面前坦然地說出日語，卻是很久以後的事了。

現在依然讓我深深感受到，能夠成為老師的學生是一件很幸福的事。

于乃明

國立政治大學 日本語文學系教授
(筑波大學博士課程歷史人類研究科博士)

我們是東吳大學日文系第一屆的學生，一年級時，雖然面臨台日斷交，但蔡老師開導我們，勉勵我們努力讀書，也給我們很嚴格的指導。老師為了讓我們講一口標準的日文，找來了指導會話的久尾幸子老師、音聲學的原土洋老師。並且老師親自教導我們文法，讓我們學會文句分析，要求我們反覆地練習。多虧老師的循循善誘讓我們能夠習得扎實的日文能力，大家都很感謝老師。

由於老師是東京教育大學出身的緣故，所以我們第一屆就有六個同學被老師推薦到筑波大學留學。而現在其中就有四人在大學教書。

老師雖說很嚴格，但他也很會照顧學生，指導這麼多學生的蔡老師，現在也依然關注著台灣的日語教育，對我們來說老師就像是一位慈愛的父親一樣。



2016年度日本国外務大臣より表彰

文●頼錦雀 東呉大学教授、台湾日語教育学会理事（2013年－2016年理事長）
台湾日本語文学会理事・元理事長

この度、公益財団法人交流協会昭田幹夫代表をはじめ、交流協会関係者各位及び台湾日本語教育学界の先生方のお陰様で「台湾日語教育學會」と「台湾日本語文學會」は共に、2016年度日本国外務大臣表彰という荣誉に浴しまして、両学会会員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

1989年に日本語・日本文学を研究することを目的として創立された「台湾日本語文學會」は月例会及び国際会議を行い、『台湾日本語文學報』を発行していますが、日本語教育学を研究することを目的として1993年に創立された「台湾日語教育學會」は毎年、研究発表会及び国際会議を開催し、『台湾日語教育學報』を発行しています。両学会とも歴代の理事長及びそれぞれの理事、監事、事務局スタッフの皆様のご尽力によりまして、台湾における日本語学研究、日本文学研究、日本語教育学研究の理論と実践の知識に関する情報の提供、研究成果の発表

の場の提供などができました。

121年の歴史をもつ台湾の日本語教育は強制的時期（1895-1945年）、禁止的時期（1945年-大学日本語学科ができた1963年）、経済的時期（1963年-李登輝氏が総統に就任された1988年）を経て現在、文化的日本語教育時期になっておりますが、少子化及び英語重視の外国語教育政策の煽りで、主専攻の日本語学習者が減少している傾向にあります。一方、台湾と日本の歴史的関係、地理的關係、社会的関係によって人的交流がますます頻繁になっておりますので、実用日本語教育のニーズが高まっています。

新しい時代に対応した社会言語能力や語用能力の育成など社会文化教育を重視する日本語教育に加え、日本や韓国の関係学会との姉妹学会の締結、更に2011年から「さくらネットワーク」という国際交流基金「JFにほんごネットワーク」の核心メンバーになり、日本語関係研究の質的向上のために頑張っております。

ちなみに、台湾日本語教育学会歴代理事長：蔡茂豊先生（初代）、于乃明、林長河、邱若山諸氏、台湾日本語文學會元理事長：孫寅華、邱榮金両氏、同元副理事長鄭婷婷氏、両学会理事蘇文郎氏、両学会理監事内田康氏などの東京教育大学、筑波大学出身者は「台湾日語教育學會」、「台湾日本語文學會」の役員になって長年、学会活動に献身的に力を入れています。

2016年度由日本國外務大臣表彰

文●頼錦雀 東呉大學教授、台湾日語教育學會理事（2013年－2016年理事長）、
台湾日本語文學會理事・前理事長

此次，承蒙公益財団法人交流協會昭田幹夫代表、交流協會相關業務人員及台灣日語教育學界的先進們的相助，「台灣日語教育學會」和「台灣日本語文學會」同時獲得2016年度日本外務大臣表彰的榮譽，兩學會會員全體，內心無限感謝。

1989年以日本語、日本文學研究為目的而創立的「台灣日本語文學會」舉辦每月例行發表會及年度國際學術研討會、發行《台灣日本語文學報》；以日語教育學為研究目的，於1993年創立的「台灣日語教育學會」則是每年舉辦數次研究發表會及年度國際學術研討會，發行《台灣日語教育學報》。兩學會都在歷屆的理事長以及理事、監事、秘書處的同仁們的努力之下，提供了台灣於日語研究、日本文學研究、日語教育

學研究等領域理論與實踐知識相關的資訊，以及研究成果發表的場域。

台灣日語教育擁有121年的歷史，歷經：強制時期(1895-1945年)、禁止時期(1945年-大學設置日本語文學系的1963年)、經濟導向時期(1963年-李登輝總統就任的1988年)，到現在的文化導向的日語教育時期。然而，在少子化及偏重英語的外語教育政策的影響下，主修日語的學習者人數，呈現下滑的趨勢。另一方面，則是因為台灣與日本的歷史上的關係、地理位置的關係、社會形態的相近，使得雙方國民往來更加頻繁，所以在實用性的日語教育上，需求更加提高。



值得附帶一提的是，「台灣日語教育學會」歷代理事長中的蔡茂豊教授（創會理事長）、于乃明、林長河、邱若山，歷任秘書長中的陳山龍、李偉煌，台灣日本語文學會歷任理事長中的孫寅華、邱榮金、副理事長鄭婷婷，兩學會理事蘇文郎、兩學會理監事內田康等，都是東京教育大學、筑波大學出身。擔任「台灣日語教育學會」、「台灣日本語文學會」的幹部，長年貢獻心力於學會的活動。

TGSW: 筑波大学サイエンスウィーク

文・李柏旻 (国立屏東科技大学生物機電工程系准教授・2004年農林工学博士課程卒)

2016年9月16日から20日にかけて、筑波大学で2016つくばグローバルサイエンスウィークが開催されました。イベントは、2nd Overseas Alumni Conferenceや『台湾ウィーク』をテーマとし、つくば国際会議場とBiViつくば2Fが会場となりました。世界各国からの研究者や大学院生への筑波のアピールを目的とし、様々な分野の参加者がありました。社会貢献に始まり外部資金の投入に至るまで、或いは国際的な栄誉を高めるなど、多角的なニーズの下に議論が行われました。大学が独立して研究を行っていた過去から、現在の如何に産業界や政府機関との協力体制を築くか、如何に相互効果を高めるかという移り変わりについて、これからの時代の課題に関する意見交換がされました。

今回のイベントでは、私は主に海外の卒業生をテーマとしたシンポジウムに出席しました。台湾、ブラジル、ドイツ等14カ国からの卒業生代表が、それぞれの経験や思い出を共有し、各国の校友会の活動状況についても報告しました。私は台湾校友会を代表して台湾校友会の成立と活動を報告しました。その中で、今後如何にT-Netを活用して母校筑波大学と海外の校友たちのつながりを強くするかということを強調しました。

各国の卒業生代表と各地の校友会の運営や理念について意見交換をする中で、筑波大学在学中の各国留学生の代表は、卒業生と在校生をつなげる役割をし、在校生が卒業後に後には各地の校友会に入会してい



ただき、在校生と卒業生の連携を強化することによって母校筑波大学とのつながりも深めようという共通認識を持つに至りました。

海外の卒業生をテーマにしたシンポジウムに加え、「台湾文化ウィーク」に参加しました。イベント期間中には、台湾経済文化代表処の謝長廷代表、郭仲熙副代表、台湾校友会会長の林華韋学長をはじめとする筑波大学卒業生の先輩方等、多くの来賓も訪れました。食文化、芸術、歴史の紹介から言語の講座まで、イベントは台湾への理解を深める内容で大好評でした。

今回の2016つくばグローバルサイエンスウィークを通して、改めて卒業生と母校との繋がり的重要性、卒業生同士の交流の重要性の認識を高めること、そして、シンポジウムの報告でも述べた「筑波大学で受けた薫陶、翻って母校や周りの人に社会に対する、地球村の一員として持つべき『思いやり』『恩返し』『教育』の意義」を実感しました。

今回この海外卒業生のシンポジウムに参加させていただきました母校筑波大学に、心より感謝を申し上げます。



TGSW: 筑波大学科学週

文・李柏旻 (国立屏東科技大学生物機電工程系副教授・2004年農林工学博士課程畢)

筑波大学於2016年9月16日至20日主辦了2016Tsukuba Global Science Week，活動內容包含了2nd Overseas Alumni Conference以及主題為『Taiwan Week』等活動項目，活動地點為Tsukuba International Congress Center以及2F BiVi Tsukuba Building。目的為促進來自世界各地的研究人員和研究生，廣泛多面向人員的參與；對從社會貢獻開始，到外部資金投入，或是從加強國際聲譽等多方位需求的興起討論，甚至從過去大學的獨立性研究開始，以及如何與產業和政府研究機構的合作，如何增加協同效應等等，主動積極去面對一個亟待解決問題的研討會議。

本次活動期間我主要參與海外畢業校友主題的研討會，活動目的主要為讓來自台灣，泰國，巴西，德國等14國的畢業校友代表人，互相分享彼此的經驗與心路歷程，並從中報告各國的校友會活動狀況；我以代表台灣校友會身份參與報告了台灣校友會成立及活動狀況，並說明了未來如何更加積極利用T-Net，加強與母校筑波大學及海外校

友的連結。活動中透過大會的討論議題中，各國校友代表大家彼此交換在當地校友會的經營方法及理念想法；在這次海外畢業校友主題的研討會中，結合筑波大學目前在學的各國留學生代表，將畢業校友與在學留學生，借此機會連結起來彼此的交流，進而期待畢業後加入校友會，強化在學生與畢業生的連結，更加深推廣與母校筑波大學的聯繫。

除了參與海外畢業校友主題的研討會活動之外，更全程參與了『Taiwan Week』的活動。活動期間有多位貴賓蒞臨，包含台灣經濟文化代表處謝長廷代表、郭仲熙副代表，以及台灣校友會會長林華韋校長等，多位筑波大學的校友學長姐的參與。活動無論是飲食文化或藝術表演，歷史演進到瞭解語言，整個活動規劃除了讓參與的人都讚不絕口之外，更能深入的對台灣有了完整的認識。

透過這次的2016Tsukuba Global Science Week活動，重新讓自己檢視了校友及母校間連結的必要性，如何加強推廣校友間交流的重要性，如同我在會中報告提到的：受到筑波大學對我的教育薰陶影響，反之對母校對周圍的人對社會到身為地球村的一份子應該有的『思いやり(體貼)』『恩返し(報答)』『教育』的意義。也感謝母校筑波大學讓我有機會參與本次海外畢業校友的研討會，深感不已。



台湾文化ウィーク参加報告

文・林華章（台湾校友会会長）

2017年9月16日-20日、筑波大学が主催した台湾文化ウィークに校友会会長として参加し、オープニングセレモニーで挨拶をさせていただきました。

台湾文化ウィークは、つくば駅の隣に筑波大学が所有するサテライトオフィスを中心に開催されました。オープニングでは、駐日台北経済文化処から謝長廷代表や郭仲熙副代表（筑波大・1986年卒）らも、お祝いに駆けつけてくださいました。校友会からは、李柏旻先生（屏東科

技大学・2004年卒）と顧盼先生（成功大学・1996年卒）が参加しました。筑波大学の台湾留学生会も劉家銘君を中心にして台湾文化ウィークの運営を助けてくださいました。

毎日、凍頂烏龍茶の試飲、台湾名物のパイナップルケーキの試食にはたくさんのお客様が訪れ、お茶の香りを楽しみながら、台湾の写真や、台湾人留学生による書や絵画、台湾大学や成功大学などの台湾の大学、企業の展示など台湾の文化



参加「台湾文化週」之活動報告

文・林華章（台湾校友会会長）

今年の9月16-20日、我以校友会會長的身分，參加了筑波大學主辦的「台灣文化週」活動，並在開幕時上台簡短致詞。

「台灣文化週」的活動會場在筑波車站旁Satelite Office，那裡也是屬於筑波大學的空間。開幕式當天多位貴賓蒞臨祝賀，包括台灣經濟文化代表處的謝長廷代表、郭仲熙副代表（筑波大學1986年畢）等。台灣校友會則有李柏旻教授（屏東科技大學，2004年畢）與顧盼教授（國立成功大學，1996年畢）等到場參加。筑波大學則有台灣留學生會的劉家銘同學等，在「台灣文化週」的籌辦上，付出了非常多的心力。

每天會場都有凍頂烏龍茶的試喝，也有台灣名產鳳梨酥的試吃活動。川流不息的客人在茶香之中，欣賞台灣的照片、台灣人留學生的書畫作品，參觀台灣大學和成功大學的留學攤位，並與台灣企業的展示攤位交流。在此之外也有二個市民講座，一個是「你所不知道的台灣」（由出身台灣的筑波大學教授王碧昭教授主講），另一個是「台語講座」（由亞細亞大學講師、在日台灣同鄉會理事多田惠老師主講）。節目多樣充實，還有台灣造詣深厚的直木賞作家--乃南りさ的talk show、台灣新興閣掌中劇團帶來



を楽しんでいました。展示以外にも、2つの市民講座「知られざる台湾」（台湾人の筑波大学教授 王碧昭氏）、「台湾語講座」（亜細亜大学講師、在日台湾同郷会理事 多田恵氏）及び、台湾に造詣の深い直木賞作家・乃南アサ氏によるトークショー、台湾の新興閣掌中劇団による人形劇、関東地域台湾人医師団体による台湾の歌の合唱、映画上映（「KANO」や「空を拓く」など）と、多岐にわたる

イベントが行われ、その全てが満席となる盛況ぶりでした。期間中延べ1,500人以上が来場したと聞いています。

私が筑波大学留学時代にお世話になった、宮下節先生、伊与田康雄先生、大先輩の蔡さんとも再会することができ、充実した一時を過ごすことができました。今後、台湾と筑波大学の交流が益々盛んになることを祈念しています。



的布袋戲演出，另外，關東地區台灣人醫師團體也合唱了台灣的歌曲，活動期間並放映了台灣二部電影，分別是「KANO」以及「空を拓く」。「台灣文化週」的活動期間，總共吸引了1500人以上的觀眾駐足，每天會場都高朋滿座盛況空前。

這次回到筑波大學，我也見到了留學的時代惠我良多的宮下節老師、伊与田康雄老師及蔡大學長，度過了非常充實的日子。誠心祝願今後台灣與筑波大學的交流能更臻緊密。



清掃活動で社会をより美しく

文●沈美雪（東京教育大学大学院修士課程東洋史専攻）



「茶道」「華道」は馴染みのある言葉ですが、「掃除道」というのを聞いたことがありますか。これは「台湾美化協会」の、トイレ掃除を通じて日常生活のあらゆることを徹底し、志を磨き、謙虚に学び、感謝の念を持つという精神です。

「台湾美化協会」は徐重仁理事長が日本の「掃除に学ぶ会」に感銘を受けて14年前に設立した公益協会です。トイレ掃除は簡単そうに見えますが、実は作業も道具も大変専門性のある奥深いものです。それまではトイレが綺麗になるということで満足していた私も、大きな衝撃を受けると同時に感服しました。

成立以来400回の清掃活動を行ってきま

したが、参加者は企業、学校の子どもたちや保護者、日本、香港、マレーシアからの仲間たちです。手ずから腰をかがめてトイレをピカピカにし、その周囲もきれいにします。仲間とのこうした充実感は、大変貴重な経験です。

「トイレの神様」という歌を聞いたことがありますか？「トイレにはきれいな女神様がいて、毎日トイレをきれいに掃除していたら女神様のように綺麗になれる」。私は綺麗にはなりませんが、協会の仲間たちと各地に赴き学校の活動に参加することを通して、柔軟性が身につき生活もより充実したものになりました。

清潔整理整頓 讓社會更美好

我們對「茶道」「花道」都很耳熟，但是你聽說過「掃除道」嗎？這是「台灣美化協會」所推動的精神，透過清掃廁所，在日常生活中能夠做到凡事徹底、磨練心志，謙卑學習、感恩惜福。

「台灣美化協會」是徐重仁理事長於14年前導入日本「清掃學習會」（掃除にぶ）而設立的公益協會。看似簡單的工作卻有一套專業的作業流程和所需的各種工具，一向以廁所乾淨自滿的我也頗為震撼又佩服。

成立至今已經有400次的清掃活動，參加者有企業、學校孩子與家長，以及日本香港馬來西亞各地來的朋友。大家徒手彎腰將廁所洗得亮晶晶，並把周圍環境打掃得明淨清爽，這種團隊合作的美好感覺令人珍惜。

你聽過「廁所女神」這首歌嗎？「廁所裡住著一位漂亮的女神只要每天把廁所掃乾淨就能變得像女神那麼美麗…」我雖然沒有變漂亮，但跟著協會到各地參與活動，胸襟變得柔軟、生活也更充實。



台灣に赴任して

文●伊原健作（2005年第一学群社会学類卒 日本經濟新聞社 台北支局長）

大学時代に所属したゼミでは見識を広げるため新興国への一人旅が義務付けられていて、インドや中東を訪れました。香港など「アジア四小龍」の一角として既に発展を遂げていた台湾を訪れる機会はありませんでしたが、振り返ると大学での経験が今につながっているように思います。

2015年10月から台北に留学、2016年4月に赴任しました。台湾は蔡英文政権の発足や鴻海精密工業によるシャープ買収などトピックにこと欠かず、今は必死で追いかける日々です。

最近で印象深かったのはヘヴィ・メタルバンド出身の立法委員（国会議員）、

林昶佐氏のライブ演奏の取材です。どぎつい化粧、叫び声にしか聞こえない歌声、興奮状態の観客……。そんな状況で、曲の合間に本人が政治をまじめに語ります。若者の熱気が政治を動かす台湾のダイナミズムを実感しました。

プライベートでは、いつか自転車で台湾を一周する「環島」に挑戦したいと思っています。



派駐台灣

大學時代我參加的研究會為了擴大會員見識規定要前往新興國家做個人旅行，於是我去印度，中東等地方。同為亞洲四小龍之一，已經躋身發展完成國的台灣我卻一直沒機會造訪。不過回顧大學時代，似乎當時的經驗延續至今。

去年10月來台北留學，今年4月前來赴任。適逢台灣蔡英文新政府上台，民間鴻海集團併購夏普等等熱門話題不斷，每天都在拼命追新聞。

最近令人印象深刻的採訪是重金屬樂團出身的立法委員林昶佐先生。在他的現場演唱會上。濃烈的妝扮，嘶吼的歌聲，興奮絕頂的觀眾…。如此氛圍中，歌者在歌曲中夾雜認真的對政治的暢談。深深感受到年輕人的熱力撼動台灣政治的強大力量。

我希望有機會利用私人時間挑戰腳踏車繞台灣環島一周。



グローバル30

文 ● 林蓉瑄 Rosana Lin (G30 Geoscience学部四年生)

筑波というのは、一般の都市以上に人生に大きな影響を与えてくれる街です。私が学んでいる筑波大学G30では、住居や経済状況、入国後のケアなど周到的配慮のもと、地球村にいるかのような国際的な環境の中で、かけがえのない経験や学習ができます。

そこでは文化衝突も繰り広げられることもあります。それを解決するのがコミュニケーションです。勿論困難にも直面しますが、それが人生の挑戦です。感謝の気持ちをも



って仲間と切磋琢磨していきたいと思っています。

Global 30

筑波，一個比城市更會顛覆你人生的好城鎮，筑波大學G30，更是全方位的磨練下一代年輕人的好地方，筑波大學G30的最鮮明的特色，國際化，還不用動到頭腦用智慧去與人對話時，甚至事後以心去感受時，你就可以從走在校園間看到自己幾乎住在地球村，也是大學四年在G30讓我最感恩的地方。

筑波G30在國際化這方面抱持日本人一生懸命的心情，從學生的起居、家裡的經濟需求、到抵達時大大小小的事情都替你想好，

讓我們可以無後顧之憂的，在思想上、習俗上、飲食上、語言上、各種你能想到的做世界性的交流。儘管有時像是天天上演文化衝擊的戰場，但人就是因為有溝通與對話，才能走向和平，如同鑽石只能以鑽石去琢磨一樣，人與人之間，也只有通過人格的互相切磋琢磨，才能鍛煉人向着更目標進發。因此，在筑波遇到的各種困難，我也很感謝筑波帶給我這些挑戰，身為一位大學生，唯有在勞苦與使命中，我們的人生才能繼續創造及發揮最大的價值。



大学の街

文 ● 何承融 (人文社会科学研究科 国際政策専攻 博士後期二年、2016年度筑波大学留学生会会長)

ビルに囲まれた街中の大学とは異なり、筑波大学はまさに「大学の街」と言うに相応しい所です。学生同士は、クラスメートという関係を超えて生活面でもお互いに助け合う仲間です。台湾留学生会の活動形態も、こうした「大学の街」らしい特徴があります。まず、学生が皆近くに住んでいて交通機関の制限を受けることがないため、イベントへの参加率が高くいつも満員御礼状態となっています。次に、学校の周辺施設も学生のニーズへの配慮がされており、留学生会が使用できるスペースもたくさんあって多彩なイベントが行われています。例えば、大学にも交流、スポーツ、野外バーベキューできる場所がありますが、それに加えて周辺のコミュニティに



も借用可能な公共スペースも豊富です。最後に、「大学の街」の環境は留学生同士の距離を縮めてくれるため、留学生会のオフィシャルなイベントだけではなく、プライベートな付き合いも頻繁にあり、食事、カラオケ、スポーツ等の集まりも盛んに行われています。

総じて言えば、関東の有名大学の中では筑波大学は離れた場所にあるのですが、台湾の学生にとって、筑波大学での学びは、ここでもそ体験できない留学生活になること間違いなしです。是非、皆さまも筑波大学留学生会の大家族の一員となられることを、心よりお待ちしております。

大學城

和市區大學被大樓包圍的校區型態不同，筑波大學是貨真價實的「大學城」，學生之間不僅是同學關係，更是生活上互助的夥伴，這種大學城的環境也深深影響了台灣留學生會的活動型態。首先，因為學生居住地集中，少了交通上的障礙，同學們在活動參加上均十分踴躍，活動場場爆滿。其次，因學校周邊的設施多考慮到學生的需要，使得留學生會可用的空間資源相當大，活動更多樣化。例如學校本身有設置社交、

運動、戶外烤肉的場地外，附近社區也有許多公共空間可租借。最後，因為大學城的環境容易促成留學生之間的緊密關係，所以除了留學生會舉辦的正式活動之外，同學之間的私人交流更是頻繁，飯局、唱歌、運動等聚會從不間斷。總而言之，在關東名校之中，筑波大學位置相對偏遠，但我認為對於台灣學生來說，就讀筑波大學絕對能夠獲得最特別的留學生生活體驗。筑波大學留學生會誠摯邀請各位加入這個大家庭。



筑波大学台湾校友会各地の親睦会

台北
第1回 (2016年3月)

筑波大学卒業生・修了生15名が集まり、日本のお好み焼きに舌鼓を打ちつつ懇親会を実施しました。

メンバーは台湾人の校友を中心に、物流、金融、政府関係者、大学教員、研究者、スポーツなど多様な分野からの参加がありました。異なるバックグラウンドを持ちつつも、筑波大学という共通の話題の下、世代と国境の枠を超え楽しいひと時を過ごしました。

この日は台北での駐在を終えて帰国する日本人メンバーの送別会ともなりました。



台中
第1回 (2016年6月)

筑波大学台湾校友会台中地区では、6月に親睦会が開かれました。今回は、台湾校友会会長である林華韋国立台湾運動体育大学学長の呼びかけにより台中市内の有名な日本料理店で行われ、筑波大学の校友6名にその家族や友人も加わって計10数名の会となりました。

今回の参加者はすべて台湾国内の教育

機関の教員で、まだ校友会の会員ではなかった2名も新たに入会しました。

親睦会は、校友同士の交流の機会及び今後より多くの台湾の優秀な若者が母校で学び筑波大学台湾校友会がますます発展するよう図っていくことを確認しあう機会にもなりました。

筑波大學台灣校友會共聚一堂

台北
第1回 (2016年3月)

筑波大學大學部和研究所畢業校友15人，今年3月於台北共聚一堂品嚐大阪燒相談甚歡。

此次聚會主要是台灣的筑波畢業校友為主，包括服務於物流業、金融業、政府公職人員、大學教師、研究人員等各行業校

友。雖然各有不同背景，但是共同話題圍繞筑波大學，跨越年齡，國界把酒言歡度過美好愉快的相聚時光。

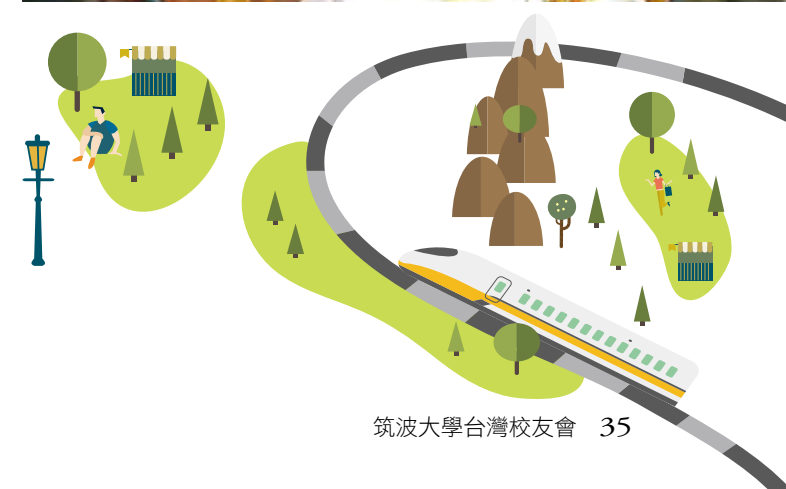
本日聚會另一目的是為歡送即將結束駐台返日的日籍校友。



台中
第1回 (2016年6月)

筑波大學台灣校友會台中地區成員於2016年六月二十四日舉辦一場小型聚會，此次聚會由校友會現任會長林華韋校長規劃安排，於台中市區的著名日本料理店辦理，邀請台中地區校友參加。當日參加聚會者有校友六名，連同校友的親人朋友合計十餘名。

本次於中部地區辦理小型校友聚會除了提供校友聯絡與交換訊息的機會，同時達到轉介國內優秀年輕學生赴母校就學，招收新會員入會強化台灣筑波校友會組織的效果。



台北
第2回 (2016年7月)

「暑気払い」として、台北市内のおしゃれな居酒屋で第2回の親睦会が行われました。この日集まることができたメンバーは少数ではありましたが、台湾に赴任して数ヶ月の日本経済新聞台北支局長の伊原さんを新しくお迎えし、和気藹々とした会になりました。

この数週間後には、台湾校友会の設立に



日本人幹事として尽力してくださった交流協会総務室長の御澤さんが、香港への異動となりました。

台中
第2回 (2016年11月19日、20日)

2016年11月19日に台中において校友会親睦会を開催しました。読売巨人OB軍と林華韋会長が監督を務められた台湾代表OB軍との野球親善試合に合わせた懇親会です。

校友会からは、林華韋会長、邱若山副会長、曹融氏、鍾文鑫氏、莊坤遠氏、李柏旻氏、李超雄氏及び同夫人が参加しました。筑波大学からは山科直子氏（広報室教授）、川村卓氏（体育系准教授、筑波大学野球部監督）、大庭良介氏（医学医療系准教授、筑波大学台湾オフィス長）及び同夫人、植田雅弘氏（国際室主幹）、林佳瑤氏（台湾オフィススタッフ）にご参加いただきました。午前中

は、校友会として、筑波大学からの皆様を日月潭に案内しました。みなさまにとってもよろこんでいただきました。夜には、野球親善試合の懇親会会場の一室で、食事会を開催しました。また巨人軍OBの選手などからもサインなどをいただきました。アレンジいただきました林会長には感謝申し上げます。

11月20日には、読売巨人OB軍と台湾代表OB軍の野球親善試合を応援しました。川村先生に解説いただき、試合観戦も有意義なものとなりました。

日頃交流のない校友の皆様とも懇談でき、大変有意義なものになったと思います。

台北
第2回 (2016年7月)

筑波台北校友[消暑聚會]於2016年7月在台北市内一家很富麗堂皇的居酒屋舉行。此次小規模的聚會,會中歡迎新上任數月的日本經濟新聞台北支局局長伊原先生,並且

相談甚歡。

數週之後,台灣校友會成立時擔任日籍幹事推動會務不餘遺力的交流協會總務室長御澤先生職務調動轉赴香港。

台中
第2回 (2016年11月19日、20日)

2016年11月19日,在台中舉行了難得的校友聯誼活動。這次的活動是與「華南金控台日傳奇球星慈善表演賽」聯合舉辦的,由林華韋會長擔任台灣OB代表隊的教練,日本讀賣巨人OB隊由現任軟銀球團會長王貞治領軍。

此次參加校友會活動的校友有林華韋會長、邱若山副會長、曹融、鍾文鑫、莊坤遠、李柏旻、李超雄及夫人;筑波大學則有山科直子教授(広報室)、川村卓(體育系副教授、筑波大學棒球隊教練)、大庭良介(醫學醫療系副教授、台灣辦事處處長)及夫人、植田雅弘(國際室主幹)、林佳瑤(台灣辦事處)。當天早上由校友會接待筑波大學的師長們,



到中區名勝日月潭一遊,晚間在台日傳奇球星慈善表演賽的聯誼會場,闢室舉行餐會,很幸運地獲得了傳奇球星們的親筆簽名與合照,在場的與會校友們都十分盡興,感謝林會長的細心安排。

11月20日,我們到台中洲際棒球場進場觀賽,為日本讀賣巨人OB隊與台灣代表的選手們加油,並有專業的川村教授為我們現場解說,真是一場難忘的觀賽經驗。

台中的校友在百忙之中,特別為我們舉行了這場聯誼活動,讓我得以與各位校友進行各方面的深度的親善交流,很高興能參加此次別具意義的校友會活動。



筑波大学台湾オフィス便り

文●大庭良介（筑波大学台湾オフィス所長）

2014年7月26日、筑波大学台湾オフィスは協定校である国立台湾大学内にオープンしました。私は、2007年に筑波大学へ赴任し、主に医学・生物学分野の微生物学に携わってきました。その間、教育・研究交流を通じて台湾との交流を深め、2015年4月より林佳瑤（台湾現地スタッフ）と2名で台湾現地での活動を開始しました。

筑波大学と台湾は、その前身機関（東京教育大学や高等師範学校）の時代から、産官学民の様々な分野で人材交流を進めてきました。本オフィスでは、関係大学・機関等との学術交流活動支援、学生の相互派遣交流支援、校友会活動支援など、さらなる交流の加速と定着を目的に活動を進めています。

2016年1月21日現在、国立台湾大学、国立台湾科技大学、国立台湾師範大学、国立精華大学、国立交通大学、国立屏東科技大学、国立台湾芸術大学、国立彰化師範大学、国立政治大学、国立成功大学、国立台湾体育運動大学、輔仁大学、高雄医学大学、東呉大学、国立防災科学技術中心と協定を締結しています。これらの大学と、2015年度には、双方から約50名ずつの学生が短期または長期の留学をしています。

また、高校への訪問（大学入試説明会）や、台湾産業界や台湾行政と筑波大

学との仲介などもしています。台湾と筑波大学、さらには台湾と日本との架け橋となるべく活動しています。

台湾オフィスの活動は、以下のウェブサイトで紹介しています。

ホームページ：<http://www.global.tsukuba.ac.jp/overseas/taiwan>

FaceBook：<https://www.facebook.com/ut.taiwan.office/>

最後になりますが、筑波大学では「筑波大学基金」として、校友の皆様より寄付を集めております。学生への経済支援、学生の国際交流支援、学生及び団体の課外活動支援、附属学校の活動支援、大学と卒業生の交流支援、筑波大学スポーツ活動支援、附属病院活動支援を目的としています。詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。皆様のご厚意に感謝申し上げます。ご質問などありましたら、筑波大学台湾オフィスまでお気軽にお問合せください。

筑波大学基金ホームページ：<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/index.html>

校友の皆様のご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



來自「筑波大學台灣辦事處」

文●大庭良介（筑波大學台灣辦事處處長）

台灣辦事處在2014年7月26日成立，辦公室設在筑波大學協定校--國立台灣大學的校園裡。我是在2007年到筑波大學擔任教職，專長是醫學生物學中微生物的領域。透過許多與台灣的教育和研究上的交流，對台灣有了更深入的了解，從2015年4月開始，我與林佳瑤小姐共同開始了筑波大學在台灣的各项活動。

筑波大學與台灣的淵緣深遠，從前身大學--東京教育大學、高等師範學校的時代開始，在產官學界及民間，均廣泛進行各領域之人才交流。本辦事處成立後，也致力於大學間的學術交流、交換學生的派遣、校友會的活動等，在各項交流活動上給予支援。

目前，我們在台灣擁有眾多的友好協定校，包括：國立台灣大學、國立台灣科技大學、國立台灣師範大學、國立清華大學、國立交通大學、國立屏東科技大學、國立台灣藝術大學、國立彰化師範大學、國立政治大學、國立成功大學、國立台灣體育運動大學、輔仁大學、高雄醫學大學、東吳大學、國立災害防救科技中心。筑波大學與這些大學間，在2015年度，有了超過50名的學生互訪，進行短期和長期的交換留學活動。

另外，本辦事處為了更加扮演好成為台灣與日本間橋樑的角色，也定期到台灣北中南各高中進行「大學入試説明會」，並且積極促成筑波大學與台灣的產業界和行政部門之間的合作。



台灣辦事處的各项活動，請見以下網站：

官網：<http://www.global.tsukuba.ac.jp/overseas/taiwan>

臉書：<https://www.facebook.com/ut.taiwan.office/>

最後，筑波大學以「筑波大學基金」的方式，提供給各位校友為母校捐款，基金用於支援清寒學生、支援學生國際交流活動、支援學生及團體的課外活動、支援附屬各級學校之活動、支援大學與畢業生校友們的交流活動、支援體育活動、支援附屬醫院之活動等。詳情請見以下網站，在此向各位校友致上最誠摯的感謝。有任何問題都歡迎與台灣辦事處接洽。

筑波大學基金網站：<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/index.html>

再次感謝各位的厚愛，靜候諸校友蒞臨台灣辦事處，親臨指導。



筑波大学台湾校友会規約

- 【名称】
第1条 本会は「筑波大学台湾校友会」と称する（英語名はUniversity of Tsukuba Taiwan Alumni Associationとし、UTTAAと通称する）。
- 【趣旨】
第2条 本会は、会員相互の親睦をはかり、日台両国の相互交流と友好発展に寄与することを趣旨とする。
- 【活動】
第3条 本会は、第2条の目的を達成するため、名簿作成、校友及び筑波大学との交流協力、親睦会、その他、会員が提案する活動などを行う。
- 【会員】
第4条 本会は、下記の該当者で構成する。
（1）筑波大学または前身となる大学の学群・大学院の卒業・修了者
（2）筑波大学に学位請求論文を提出し学位を認定された者
（3）一ヶ月以上筑波大学に在籍し学習・研究等を行った者
（4）一ヶ月以上筑波大学に滞在し教育・研究等に従事した者
（5）本会の入会希望者は、幹事会の定めるところにより入会の申し込みを必要とする。
- 【賛助会員】
第5条 本会の発展に多大な貢献のあった者及び本会の趣旨に賛同する者で、会長・副会長等が認める者は賛助会員となることができる。
- 【退会】
第6条 会員は個人の事情でいつでも退会できる。
- 【総会】
第7条
（1）総会はすべての会員をもって構成する。
（2）総会は次の事項について決議する。
―会員の除名
―会長、副会長の選任または解任
―会則の変更
―会計監査の承認
（3）総会は定時総会として年1回開催するほか、必要がある場合に開催する。
（4）総会は幹事会の決議に基づき会長が招集する。
（5）総会の議長は会長がこれに当たる。
（6）総会における議決権は、会員1名につき1票とする。
（7）総会の決議は総会出席者の議決権の過半数をもって行う。
（8）会員は代理人によってその議決権を行使することができる。
（9）総会への発議は幹事会を通しておこなう。
（10）総会の議事については、議事録を作成し、議長が署名押印する。
- 【役員】
第8条
（1）本会は役員として会長1名、副会長若干名、幹事長を置く。
（2）本会は名誉会長、名誉副会長及び顧問を置くことができる。
（3）会長、副会長は総会の決議によって選出する。
（4）顧問は幹事会によって選任する。
（5）名誉会長、名誉副会長は幹事会によって推薦され、総会の承認を持って選任する。
（6）会長は幹事会を組織し、本会の活動を管轄する。
（7）副会長は会長の職務を補佐し、会長が職務遂行し

- ねるときにその職務を代行する。
（8）会長、副会長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 【幹事会及び事務局】
第9条
（1）本会の運営のため幹事会を置く。
（2）幹事会の事務局を筑波大学台湾オフィスに置く。
（3）幹事会は、会長、副会長、事務局長、副事務局長若干名および事務局員、筑波大学台湾オフィス構成員より構成される。
（4）事務局長は、会長によって選任する。
（5）事務局長は、副事務局長、事務局員を選任する。
（6）幹事会は、次の活動を行う。
―本会の活動執行の決定
―本会の会計監査
―事業報告書の作成
―総会の開催
―会員名簿の管理
―筑波大学との連絡調整
―会員からの意見をとりまとめ、会則、附則変更などを総会へ発議する
- 【会費】
第10条 本会の会費は附則に定める。また、総会開催など実際の活動内容に合わせ、適宜徴収もしくは厚志を募るものとする。
- 【会計】
第11条
（1）本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。
（2）本会の会計は事務局にて管理し、幹事会はこれを監査し、総会の承認を得る。
（3）本会に納められた会費および寄付は税金控除の対象とはならない。
- 【除名】
第12条 会員が本会の目的に逸脱する行為又は本会の名誉を傷つける行為を行ったときは、幹事会の議決を経て、その資格を失う。幹事会は総会に報告する。
- 【会則の発効】
第13条 本規約は2016年2月20日に校友会設立式で可決され、2016年2月20日より発効する。
- 【規約改正】
第14条
（1）この会則は総会の議決によって変更することができる。
（2）本規約の解釈権は幹事会に属する。
- 【附則の取扱い】
第15条
（1）本会則は会則に矛盾しない限りにおいて本会の運営のために附則を置くことができる。
（2）附則は総会の議決によって変更することができる。
- 附則
1 本会の最初の会長は林華章とする。
2 本会の最初の副会長は潘進丁と邱若山とする。
- 附則
【会費】
第1条
（1）本会の入会金を1000台湾ドルとし、入会時に一度支払うものとし、終身会員となる。

筑波大學台灣校友會章程

- 【名稱】
第一條 本會名稱爲”筑波大學台灣校友會”（英文名稱爲University of Tsukuba Taiwan Alumni Association，英文縮寫爲UTTAA）。
- 【宗旨】
第二條 本會之宗旨在於服務會員，增進會員之間的友誼，期能對台日兩國之間的國際交流有所貢獻。
- 【活動】
第三條 本會為達成第二條之目的，將致力於會員名冊的製作、校友間的以及與筑波大學之間的交流，舉辦聯誼會及會員提議之活動。
- 【會員】
第四條 本會會員由以下成員組成：
（1）在筑波大學或東京文理科學大學、東京教育大學、圖書館情報大學之大學部或研究所畢業者
（2）向筑波大學提交論文獲得學位者
（3）在筑波大學從事學習或研究一個月以上者
（4）在筑波大學從事教育或研究一個月以上者
（5）完成秘書處所訂之入會申請程序者。
- 【贊助會員】
第五條 對本會的發展做出重大貢獻及贊同本會宗旨者，經本會會長、副會長等合議後，可成為本會贊助會員。
- 【退會】
第六條 會員可自主隨時退會。
- 【總會】
第七條
（1）總會由所有的會員所組成
（2）總會將決議以下事項：
―會員之除名
―會長、副會長的選任或解任
―會則之變更
―會計監査之承認
（3）總會定期一年召開一次，必要時可加開臨時會。
（4）總會以幹事會的決議為基礎，由會長召集。
（5）總會的議長由會長擔任。
（6）總會的決議權，每位會員各一票。
（7）總會之決議須出席會員之半數以上同意始為有效。
（8）會員的決議權行使可委託代理人。
（9）總會的新議題將透過幹事會提案。
（10）總會的議事將做成會議記錄，由議長簽名蓋章。
- 【幹部】
第八條
（1）本會的幹部將設置會長1名、副會長若干名、並設置秘書長。
（2）本會可設置名譽會長、名譽副會長以及顧問。
（3）會長、副會長由總會之決議選出。
（4）顧問由幹事會推薦聘任。
（5）名譽會長、名譽副會長由幹事會推薦，總會認可後任之。
（6）會長組織幹事會，並管理本會之所有活動。
（7）副會長協助會長執行會務，於會長無法出席時，代行其職務。
（8）會長、副會長的任期二年，可連選連任。

- 【幹事會及秘書處】
第九條
（1）為維持本會的營運設置幹事會。
（2）幹事會之秘書處設置在筑波大學台灣辦事處。
（3）幹事會由會長、副會長、秘書長、副秘書長若干名、幹部及筑波大學台灣辦事處之成員所組成。
（4）秘書長由會長選任。
（5）副秘書長、幹部由秘書長選任。
（6）幹事會將執行以下之活動
―本會活動執行之決定
―本會之會計審查
―事業報告書之作成
―總會之召開
―會員名冊的管理
―與筑波大學之聯絡調整
―統整會員之意見，向總會提出章程及附則變更之提案

- 【會費】
第十條 本會之會費依附則所定。另外，配合召開總會等實際活動內容之需求，得收取費用或募捐。

- 【會計】
第十一條
（1）本會的會計年度，由每年的一月一日開始至十二月三十一日為止。
（2）本會的會計將由秘書處管理、由幹事會監督、經總會認可後向所有會員公開。
（3）本會繳納之會費與捐款均無法提報列舉扣除稅額之用。

- 【開除】
第十二條 違背本會宗旨或損害本會聲譽之會員，經幹事會表決通過，提交總會議決，取消其會員資格。

- 【章程的生效】
第十三條 本章程於2016年2月20日校友會成立大會通過，自2016年2月20日起開始生效。

- 【章程修改】
第十四條
（1）本章程可依總會之決議而修改之。
（2）本章程之解釋權屬於幹事會。

- 【附則之運作】
第十五條
（1）在不與本會則相矛盾的情況下，可依本會的營運需求，設置附則。
（2）附則在總會決議後可變更。

- 附註
（1）本會最初之會長，由林華章先生擔任。
（2）本會最初之副會長，由潘進丁及邱若山先生擔任。

- 附則
【會費】
第一條
（1）本會入會費為新台幣1000元，入會時一次支付，即可成為終身會員。

筑波大學台灣校友會
專戶收支明細表

2016年6月28日至2017年1月5日

科目	金額	累計金額
收入		81,074
第一屆校友會結餘款	69,044	
校友入會費	2,000	
存款利息	30	
廣告贊助	10,000	
支出		
第二屆校友會場地訂金	15,120	15,135
匯款手續費	15	
結餘		65,939

校友會專戶：玉山銀行(銀行代號 808)大塚分行 0288-979-138615

戶名：莊坤遠

會長：



會計：



編集後記

文●邱若山

2017年1月21日開催の校友会第二回大会を迎えるべく、林華章会長率いる幹事会は筑波大学校友会報第一号の発行を決定し、編集に当たりました。

初刊号は会長の話、台湾校友会発足式の開催実況報告、永田恭介学長と旭日中綬章受章の大先輩蔡茂豊教授との対談録、本校校友が要職を歴任した台湾の日本語文教育研究関係の二大学会が日本外務大臣表彰を受けた記事を収録しました。

過去の一年間、校友会が参加あるいは催したイベントや活動―「TGSW筑波大学サイエンスウィーク」「台湾文化ウィーク」及び台湾国内の北中南各地で行った親睦会などの実施報告のほかに、校友、母校留学中の在学生のエッセイ、筑波大学台湾オフィ

スの事業、校友会規約、年度会計仔細などを合わせて掲載しました。校友の皆様に必要なインフォメーションの提供と記録の報告をいたし、校友会の発展と充実に対する皆様のご支持を賜りたく存じます。

本会報は日本語・中国語併載の形で発行します。編集作業は服部美貴、孫寅華、内田康、孫蓉萍、大庭良介、林佳瑤、邱若山等が担当しました。初刊号ゆえ、不備な点も多々あることをご有る願ひ、校友の諸先輩方、皆様の今後のご投稿、ご指導を願ってやみません。

末筆ながら任侠本会報の出版経費を賛助下さった潘進丁、陳建中両氏に謝意を表します。

編輯後記

為迎接2017年1月21日召開的校友會第二次大會，在林華章首任會長的領導下，決定由幹事會編輯出刊筑波大學校友會會刊第一號。

本期會刊收錄會長的話、第一屆校友會成立現況報導以及永田恭介校長與獲得旭日中綬章的大前輩蔡茂豊教授的對談訪問紀錄，還有獲得日本外務大臣表彰的本校校友歷任要職之台灣日本語文教育相關兩大學會的記事。

過去一年，校友會參加或舉行的各種活動一如「TGSW筑波大學科學週」「台灣文化週」，校友會各地展開的聚會，在此均有詳

細的報導。其他尚有校友隨筆，筑波大學台灣辦公室的工作事業介紹，另附校友會規章及年度會計詳表等，希望藉此能提供校友們完整的活動資訊，凝聚校友的向心力並支持校友會的成長。

本刊採日文、中文並錄方式，編輯工作由校友會的服部美貴、孫寅華、內田康、孫蓉萍、大庭良介、林佳瑤、邱若山等合力完成。初次編輯出刊，不足之處敬請海涵，今後更請諸位前輩，惠賜支持與參與。

本刊出版經費承蒙潘進丁、陳建中兩位學長贊助，在此一併致謝。





全台物流

股份有限公司

法治為本

企業永續經營之保障

創新為先

持續競爭優勢的原動力

誠信至上

誠信是客戶滿意之基礎

服務第一

開拓新客戶之利器

林口物流中心



大溪物流中心



八德物流中心



台中物流中心



全台物流為全家便利商店之關係企業

產業別 倉儲物流業

成立於 西元1989年

全台物流為國內頂尖之物流倉儲服務業者，
一向本著『物盡其用、貨暢其流』的理念，
透過科學化的管理與綿密的倉儲配送網絡，
提供客戶低成本與高品質之供應鏈管理服務。

全台物流以【全方位的綜合型物流中心】自許，
在作業技術上建構『常溫、恆溫、冷藏、冷凍、冰溫』
五大溫層完善之物流技術。

隨著近年來外食產業興起，公司亦提供完整之商流服務，
包含商品採購、庫存調撥及提供完整之配送服務。
同時也獲得HACCP及ISO22000：2005食品安全管理系統雙認證。

歡迎對**物流及外食產業**有興趣者加入我們的行列！

自2003年起，年年名列天下雜誌之百大服務業

雲林物流中心



高雄物流中心



花蓮物流中心



ISO政策



商品安全・客戶安心

理貨溫控零異常
配送溫控零異常

FamilyMart

多年來 全家在鄰里間
總是給您暖暖的人情味

全家深入大城小鎮，街巷鄰里

無論您在哪「里」

全家就在您那「里」

營造一個有溫度、有感情、有滋味的家

愛與關懷不會打烊

總是給您暖暖的人情味

歡迎光臨 全家見！

